

装飾音について

インディアンフルートの演奏をお聴きになったことありますか？
このフルートに出会った時（ワークショップや演奏会で）実際にお聴きになられたかもしれませんね。

あの独特な吹き回し、憧れませんか？

あの長くのびしている音の途中で音が上がったり下がったりターン（回ったり）しているあれです！

音に飾りをつけるという意味で、装飾音と言います。

やってみたいけど難しそう～と思われるかもしれませんね。

私もレッスンの時に先生に言われたことがあります。

「せっかくインディアンフルートを吹くのがだから、それらしく装飾音の練習もしよう。」って。

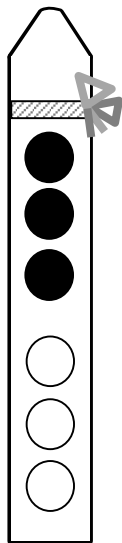
CDで聴くような、先生の演奏のような装飾音の吹き回しは無理でも、少しでもチャレンジして楽しむなら私でも出来るかと思っています。

ほんの少しでも私のやっている演奏法をお教えしますね。

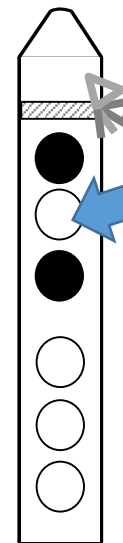
曲に装飾音を付ける前に、実際に装飾音の練習をしましょう。

まず吹きやすい音（ミにしますね）を吹きます。

長～く（ロングトーンと言います）吹いている間に、ちょっと塞いでいる指を開けてまた塞ぐ。



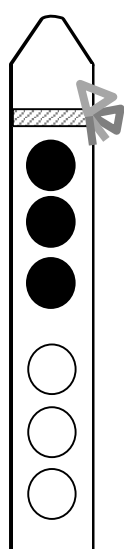
←の音（ミ）を長く吹いてください。
そして、吹いている間に左手の中指を上げ（穴を開け）、すぐ元に戻します（穴を塞ぐ）。
ゆっくりではなく素早く動かすのがコツです。
その間息は出したまま（音はのびしたまま）で行ってください。



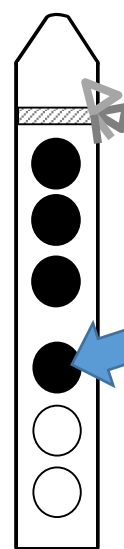
この穴を
素早く開け閉め

いかがですか？音に対して一つ高い音が飾りとしてつきました。

今度は、一つ低い音で飾ってみましょう。



←の音（ミ）を長く吹いてください。
そして、吹いている間に右手の人差し指を下げて（穴を塞ぎ）、すぐ元に戻します（穴を開ける）。
ゆっくりではなく素早く動かすのがコツです。
その間息は出したまま（音はのびしたまま）で行ってください。



この穴を
素早く閉めて
開ける

いかがですか？ 一つ低い音の装飾音も素敵ですよ。

どの音にも装飾音はつけられますし、CD や先生の真似をしてみるのも良いと思います。

運指表を見ながら、隣の音を装飾音としてつけてみて練習して下さい。
実際の演奏では、曲の中の長い音の拍子（イチ・ニ・サン・・・と数える）時に
チョロッと入れたり、音が変わる瞬間、その音が鳴る時に入れて演奏します。
とは言え、いつ入れても自由！
感性のままに自由に演奏して楽しんでください。

以上の装飾音は、ほんの一つ。

演奏のためのテクニックは、もっともっと沢山の種類があります。
演奏会やワークショップの時に先生に聞いたり、レッスンを受けて、仲間や友人と実際に演奏したりして学んでください。

上達のコツは、たくさん演奏を聴くこと。そしてたくさん吹くこと。
いつでもどこでも気軽に演奏して、楽しんで、上達されることを祈っています。